

NO,16

タラヨウ

(モチノキ科)

出雲地方で「たらいのき」と呼ばれている、高さ20mほどになる常緑広葉樹です。庭木としてよく植えられており、寺院などにも多く見られます。

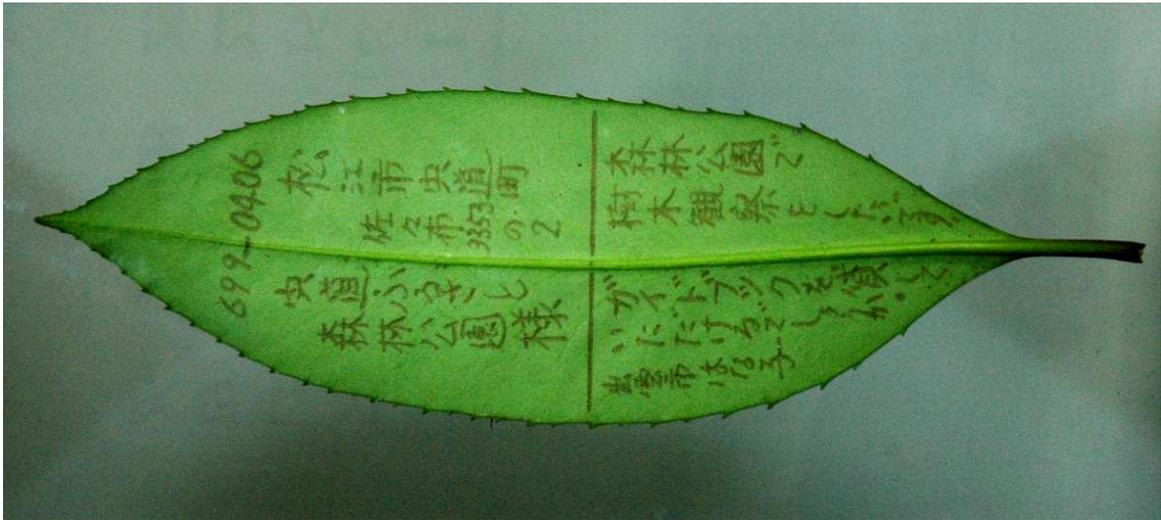
葉は肉厚で大きくてかたく、葉の縁にはのこぎりを思わせるようなギザギザ（鋸歯）があります。この葉は、他にも大きな特徴を持っています。それは「葉書の木」とか「郵便局の木」とか呼ばれるように、葉に文字が書けることです。釘で葉の裏に文字を書いてみると、最初はあまりはっきりしませんが、1～2分後には傷を付けた線が黒くなり、文字がはっきりと見えます。木の葉に文字を書いて、葉書のように実際に郵便物として送ることができます。定外郵便物扱いですので、120円切手を貼り、上半分に郵便番号と送り先の住所をきちっと書く必要があります。一度試してみるとよいでしょう。葉に文字が書けることは昔からよく知られており、県西部では「えかきしば」の地方名もあります。

なお、タラヨウの名は、インドで経文を書くのに使ったバイタラジュ（貝多羅樹）によく似ていることから、タラヨウ（多羅葉）と呼ばれるようになったようです。

タラヨウは、雄の木と雌の木が分かれており（雌雄異種）、雌の木には冬に6～8mmの赤い実をたくさんつけます。静岡県以西の日本や中国南部に分布し、庭木の他防火樹などとしても植えられます。



▲ タラヨウの葉：上葉表、下葉裏



▲ タラヨウの葉は、釘などで字を書くとしばらくしてなぞった線が黒く浮き上がってくる。この性質を利用して、木の葉を「葉書き」として使うこともできる。



▲ タラヨウの実